



「(仮称) 連合宮城政策フォーラム」

設立に向け5者協議を開催

連合宮城は、「働くことを軸とする安心社会の実現」・「政策・制度の実現」に向けた取り組みとして、「(仮称)連合宮城政策フォーラム」設立に向けた5者協議を呼びかけ、9月3日(月)に開催した。

連合宮城が中心となり、国民民主党宮城県連・立憲民主党宮城県連・社会民主党宮城県連・無所属の会より代表者が出席。今後の取り組みに関する諸課題について協議を行った。終了後の記者会見で小出会長は「来年の参議院選挙宮城選挙区の協力について、まずはそこを目指して行きたい」と述べた。



主な協議の内容は以下の通りです。

- ① 働く者の視点に立った政策制度の実現に向けた政党間の連携
- ② 働く者の生活を揺るがす法の制定や改悪反対など、連合の取り組みに対する支援
- ③ 連合宮城の政策実現に向け、県内自治体議会における議員の連携
- ④ 第25回参議院選挙における協力のあり方…など

西日本豪雨災害支援

緊急カンパ・ボランティア実施

2018年7月、西日本豪雨災害が発生し連合本部は、7月9日に「西日本豪雨災害情報センター」を設置し、情報収集しながらボランティアの派遣や支援カンパなど具体的な取り組みを進めている。

連合宮城は連合本部の要請をもとに東北ブロックと連携を図り、2018年7月24日(火)11時30分より一番町平和ビル前において、最低賃金の取り組みと連動し、街宣行動と緊急支援カンパの呼びかけを行った。今回の豪雨災害は、水害・土砂災害と東日本大震災の津波による被害を思い起こされる甚大な被害となっており、東日本大震災で全国各地の多くの皆様から支援を受けたこと、一日も早い復旧、復興への願いが込められた暖かいお気持ちが寄せられた。

この他にも連合宮城平和集会やステップアップセミナー、各地域協議会で集約されたカンパ金は、8月31日時点で279,365円となっています。ご協力に心より御礼申し上げます。

また、連合東北ブロックは9月に広島県呉市「くれ災害ボランティアセンター・天応サテライト」において、災害支援ボランティアを実施することを確認した。連合宮城は東北ブロックからの派遣要請を受け、各週となる4班を編成し計10名を派遣。重機や車が進入できない区域もあり、人手を必要としたニーズも残されている状況である。



連合宮城2018平和に向けた取り組み

連合宮城は「恒久平和の実現」に向け、平和集会の開催や連合平和4行動に参加をしてきた。

「平和」はあたりまえ…！と思う現代。しかし、いまだ戦争の痕跡や原爆の後遺症に苦しむ人々、領土を奪われ故郷を失った方々など、思いは複雑である。被爆73年の今年、戦争の実相と運動の継続で語り継ぎ、引き続き平和運動に取り組んで行く。

【2018平和集会】 連合宮城は7月24日(火)、ハーネル仙台で「2018平和集会」を開催し



120名が参加した。集会では、6月に行われた平和行動in沖縄について、連合仙台地協の星議長より報告を受けた。平和学習会では宮城県原爆被害者の会事務局長 木村緋沙子さんより、「原爆被爆体験と核兵器廃絶に向けた取り組み」と題し、広島に原爆が投下され自身が被爆した体験や、核兵器廃絶に向けた取り組みなどについて述べられた。



【平和行動 in オキナワ】 平和行動in沖縄は、6月23日～24日に開催され、連合宮城

仙台地協より5名が参加。23日に浦添市民体育館で開催された平和オキナワ集会には



1,216名が結集した。基調講演ではフリージャーナリストの屋良朝博氏より、「沖縄基地問題について」と題し、「現在の政府の考える安全保障とは何なのか、軍事力・国防のことを指しているのか非常に曖昧である」との話があった。24日に行われたピースフィールドワークでは、埋め立て予定地の辺野古、嘉手納基地、普天間基地、チビリガマを視察。戦闘機の離発着による爆音や墜落事故の懸念など日常的に危険が隣り合わせの中で生活を強いられている現状がある。



【平和行動 in ヒロシマ】 平和行動in広島は、8月5日～6日に開催され、連合宮城仙南地協より

家族を含め8名が参加。5日の17時より広島産業会館で行われた「2018平和ヒロシマ集会」には2,100名が参加した。オープニングでは連合宮城平和集会で預託された折鶴を献納し、恒久平



和への思いを強くした。

被爆体験証言では箕牧智之さんより、原爆が投下された暑い夏の広島の様子や、これまで被爆された皆さんの切実な思いを聞き、改めて平和のすばらしさを感じた。連合広島青年・女性委員会役員によるピース・ウォークでは、広島平和記念公園内のモニュメントや記念碑などの説明を受け、参加者で恒久平和の実現を目指していく事を誓い合った。



【平和行動 in ナガサキ】 平和行動in長崎は、8月8日～9日に開催され、連合宮城青年・女性委員会、連合宮城大崎地協青年女性部より、5名が参加

をした。長崎県立総合体育館で行われた「2018平和ナガサキ集会」には3,360人が参加。集会で連合本部の相原事務局長は、2020年に開催される



「NPT再検討会議」に向け、「さらなる世論喚起と国際的な動きを強めて行かなければなら

ない」と挨拶。改めて恒久平和の実現に向け決意を表明した。今回の特徴点としては、9日に開催された「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に国連のグレットス事務総長が現職として初めて参列をし、「核兵器廃絶は国連の最優先課題」と表明した。高齢化に伴い被爆体験を語る方々が少なくなっており、次の世代への継承が課題となっており、改めて連合平和行動の重要性を感じた。



※ 9月8日～9日で開催予定だった「連合2018平和行動in根室」は9月6日に発生した北海道胆振東部地震の影響により中止となりました。

平和行動 in ヒロシマ 参加者より

小室 虹奈 さん (中学2年生)

仙南地協・電機連合

8/4～8/6、私は広島に宮城から平和行動の派遣団として原爆や、その歴史のことを学んできました。

自分で調べたり、授業や教科書には到底のっていないような知らない事や他のものとの関係を肌で感じる事ができた貴重な3日間でした。

何より一番感じたことは広島や呉の人たちは次に繋げようとしていることです。「原爆を落とされた」だけでなく、「落とされた」から根本を無くそうとし、働き、語り継ごうとしているところにすごいなと感動しました。

歴史博物館では当時使われていた船や武器などを案内役の人が付き、一つずつ教えてくれて、資料館では原爆が落ちる前と後、それによって出た被害を受けた物や人の写真がそのまま保管され、核爆弾がどれだけ強力なものなのか、どういうものなのか、それを踏まえてどうやって復旧したのか、これからどうすれば良いのかが詳しく書いてあり、どれだけ自分たちが広島について知らなかったのか、どれだけ広島について知りたくなったのかが分かりました。

家に帰ってから読んだ、資料館で購入した原爆と広島についての本から目が離せなくなりました。大人でも行く機会が少ない広島にこんな形で行かせてもらって色々なことを学びました。7/24の勉強会でも「歴史を肌で感じてきたい」と言いましたが、それ以上に感じたことも、学んだことも、影響されたことも多くありました。

これからの平和行動でも何かしらこのような場面で日本や色々なことに触れ、未来でも何かの役に立てるようになりたいなと思いました。



村上 武夫・瑠璃 さん (小学5年生)

仙南地協・基幹労連

このたびは、「連合2018平和行動in広島」に参加する機会を頂き感謝いたします。私は、小学5年生の娘と一行に参加を致しましたので、感想を含めご報告いたします。

日々の生活の中で私は、世界的に見ても平和で安全な日本に暮らし、戦争や原爆などについて深く考える必要性もない環境にいます。まして、娘は物理的にも不自由なく豊かで、平和であることが普通の感覚でしかありません。

幼い頃私は、戦争時の体験談を父や小学時代の先生に何度か聞く機会がありました。父は仙台空襲の火災の体験、広島に投下された原爆の話は、先生や地元に来た原爆写真展などで理解を深めました。そして今回、実際に爆心地に近い原爆ドームを目の前にし、ドーム前を流れる元安川に掛る橋の上から見た今の景色からは、73年前、実際にこの川に水を求めて、折り重なる様に亡くなる数多くの人々の光景を想像すると、人が犯した愚かさや亡くなった人達の無念さで、胸が痛くなる思いを止められませんでした。その後の広島平和記念館資料館で娘は、黒く焼け焦げた遺体の写真を直視できずに黙り込み、うつむいて動けない程の衝撃を受けました。

「火の中に入って死んだの?」という娘からの問いに私は、「原爆が爆発した時に光った、すごい熱で体が焼けたの」とうまく答えられませんでした。これと同じように戦争や原爆を実経験した人しか生々しい本当の恐ろしさ、悲惨さを伝えることは出来ないのではないのでしょうか。

最後に私の実祖父は、この戦争で戦死しました。まだ小さい子供5人と家族を残し遠い異国の地で亡くなったと聞いています。祖父と同じように戦争で亡くなった多くの人々、そして、広島への原爆投下で一瞬の間に14万人の命が奪われてしまった人々の体の痛み、心の苦しみと無念さを思うと人間として、また、子供を持つ親として、その時の心情は言葉だけでは到底、表せるものではありません。この貴重な体験を基に平和の大切さを強く思い、そして、世界中から争いがなくなり、一人ひとりの人間が幸せに暮らせる日々が、近い将来に来ることを願って終わりに致します。

職場の現状から考える働き方改革

女性委員会・青年委員会
ステップ・アップ・セミナー

連合宮城青年委員会・女性委員会主催による「2018ステップ・アップ・セミナー」は8月3日、ハーネル仙台において開催され、53名が参加した。今年度は、「男女が共いいきと働き続けるために」をテーマに、総合男女雇用平等局男女平等局の畠山局長を招き講演をいただいた。

畠山局長は、男女平等参画運動の歴史をはじめ、働き方改革を中心に触れ、仕事と家庭の両立、女性活躍促進が進まない現状について各種調査データをもとに様々な視点から提起。

「働くことへの価値観が多様化しているなかで、働き方や暮らし方をどうデザインするのか私たち一人が考え、



労働組合としてどう取り組むべきかを考え進めていくことが重要になる。働き方改革は、組合活動の本気度で実現できることでもあり、労働

組合の存在意義や活動の質が問われる。そのためにも組合役員は、組合員との信頼関係や労使コミュニケーションを築き、働く人が生きがいを感じ、働き続けられる社会をつくりあげるためにも労使の取り組みがカギになる。」と述べた。

その後、6班に分かれて行ったグループディスカッションでは、自分の職場における働き方について話し、発表を行った。「働く人、会社や組合など様々な意味で意

識や風土の改革が必要であり、私たちも仕事や組合活動を通じて実践、発信していくことが重要である。」とグループのまとめを述べた。



宮城県の地域別最低賃金は2018年10月1日より次の通り改訂されます。

1時間あたり26円引き上げられ **798**円(時給)

深夜の時間帯(午後10時～午前5時)に勤務した場合は25%が加算され、

1時間あたり **998**円(時給)

最低賃金は、働くすべての人に賃金の最低額を補償する制度です。年齢やパート・学生アルバイトなどの働き方の違いにかかわらず、全ての労働者が適用となります。

連合宮城第68回地方委員会の開催について

開催日時

2018年10月23日(火) 14時開会

開催場所

ハーネル仙台3階 蔵王

議案

- ①連合宮城2019年度運動の進め方(案)
- ②連合宮城2019年度予算(案)
- ③連合宮城役員の交代について 等